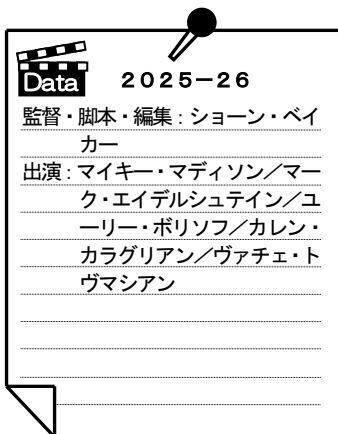




👁️👁️ みどころ

身分違いの恋をテーマにした名作やシンデレラ物語は多いが、セックスワーカーでもそれは可能？米国人同士では無理でも、ロシアの大富豪の（バカ）息子と米国娘ならそれも可能？

そんな映画がカンヌで最高賞を受賞したうえ、アカデミー賞でも作品賞、監督賞、主演女優賞等 5 部門を！その根拠は一体どこに？

「結婚は両性の合意のみに基づいて成立する」はずだが、「（バカ）息子が娼婦と結婚した」との報を受けた母親が、ロシアから米国に乗り込んでくると・・・？中盤のドタバタ劇を含めエンタメ性の強い本作だが、ラストは純愛風の意外な幕切れになるので、それに注目！

■□■カンヌ最高賞受賞作はどんな映画？ヒロインのお仕事は■□■

「アノーラ」はヒロインの名前。通称“アニー”と呼ばれているアノーラ（マイキー・マディソン）は、ストリップダンサーをしながら一人暮らしをしている若い女性だ。ハリウッド映画には、古くは『ローマの休日』（53 年）、新しく（？）は『プリティ・ウーマン』（90 年）に代表される身分違いの恋をテーマにした名作があるが、本作もそれ？

彼女の職場は、ニューヨークのブルックリンにある巨大かつ豪華なクラブで、彼女の職業は“ストリップダンサー”とされているが、その実態は？この手の店は、アメリカだけでなく日本にもたくさんある。もともと、日本には本作のような豪華なクラブは少なく、いわゆる風俗店という名前が定着している。そして、風俗店の風俗嬢といえば、実質的には売春宿の売春婦とイコールだ。売春宿の売春婦にもピンからキリまであることは、NHK 大河ドラマ『べらぼう』を観ればよくわかる。すなわち、同じ売春宿の売春婦でも、吉原の“花魁”は超高級な売春婦だが、“夜鷹”は最下級の売春婦だ。

ストリップダンサーと呼ばれているアノーラが勤めているブルックリンの高級クラブには超スペシャルな個室もあるらしい。そして、クラブで合流した後、今その超スペシャルな個室で、アノーラから超スペシャルなスペシャルサービスを受けている客は、ロシア人の若者イヴァン（マーク・エイデルシュテイン）。アノーラがイヴァンの担当をするようになったのは、アノーラが祖母の影響でロシア語を少しばかり理解できるためだ。私も中国語の勉強を始めた頃、北新地のクラブに飲みに行くと、バイトで働いている中国人のホステスに大いに魅力を感じたが、アノーラは超美人であるうえ、接客も上手。そのうえ、私にはわからないが、性的魅力と性的テクニックが抜群だったらしい。そのため当日の客イヴァンがアノーラにメロメロになったうえ、翌日には自分の家に出張してくれるように注文したから、アノーラは驚きつつ、それを（多額の報酬に目が眩んで）承諾。そして翌日、イヴァンのお屋敷を訪れたアノーラは、イヴァンがロシアの大富豪の御曹司であることを知ってビックリ！これはひょっとして、これから大きな金づるに！アノーラが内心そんな期待もしていると、次にはイヴァンから「これから1週間、僕の専属になってくれ。料金は1万ドルで。」と言われたから、トランプ流に（？）料金を1.5万ドルに値上げしたうえ、それを承諾。こんなスペシャルな話が現実になれば、お店などを辞めてしまってもいい！アノーラがそこまでの決心を固めたのは当然だが・・・。

■ラスベガスでの豪遊後のプロポーズは？結婚式は？■

日本では考えられないことだが、アメリカでは大富豪にとってプライベートジェット機は日常的な必需品。それは、ロシア人の大富豪の（バカ）息子で、今はアメリカで豪遊中のイヴァンにとっても同じらしい。すると、アノーラと共に一夜を過ごし、2日目の夜も自宅のベッドでアノーラと過ごしたイヴァンにとっては、1週間の“契約彼女”になることが決定した後、多くの友人たちを引き連れて、プライベートジェット機に乗って、ラスベガスで豪遊するツアーは魅力的なコースだったらしい。もっとも、イヴァンとアノーラのラスベガスでの1週間の豪遊は、映画『愛のコリーダ』（76年）（『シネマ49』129頁）で阿部定と吉蔵が過ごした数日間と同じように、“セックス三昧”の生活になったのは当然だ。『愛のコリーダ』では、阿部定が吉蔵の“モノ”のあまりの良さにその「モノ」を切り取ってしまったが、本作ではイヴァンがアノーラの“モノ”のあまりの良さに、「アメリカ人と結婚すればロシアに帰らなくて済む」「僕と結婚してくれ」と提案することに・・・。

そんなイヴァンの提案をアノーラが「冗談」だと思ったのは当然だ。しかし、何度も「僕は本気だ！」と言われると、遂にアノーラはそれを信じることに。その結果、2人は24時間開いている教会へ駆けつけて結婚式をあげることに。映画『卒業』（67年）では、教会から花嫁を奪い去るラストのシークエンスがあの時代最大の衝撃だったが、アノーラにとっては、ロシアの大富豪の（バカ）息子との結婚式は、人生最大の衝撃だったはずだ。さあ、これからのアノーラのシンデレラストーリーの展開は？

■□■息子が娼婦と結婚！？激怒した両親の行動は？■□■

米ソ二大強国による東西冷戦時代には、それをテーマにした名作がたくさんあった。ポール・ニューマンとジュリア・アンドリュースが共演した『引き裂かれたカーテン』(66年) やリチャード・バートンが主演した『寒い国から帰ってきたスパイ』(65年) はその代表作。『007』シリーズの第2作『007 ロシアより愛を込めて』(63年) もその一つだ。そんな東西冷戦時代に比べると、2024年のカンヌ国際映画祭での最高賞受賞作たる本作は、ロシア人の大富豪の(バカ) 息子が、アルメニア人の司祭トロス(カレン・カラグリアン)を筆頭に、イゴール(ユーリー・ポリソフ)、ガルニク(ヴァチェ・トヴマシアン) という3人の「見張り役」付きではあるものの、一人で豪邸に住みながらアメリカで豪遊する姿を描くものだから、隔世の感がある。

それはともかく、3人の「見張り役」にとってイヴァンがプライベートジェット機に乗って、遊び仲間たちと共にラスベガスに向かい、豪遊している旨の情報はキャッチしていたものの、ラスベガスの教会で娼婦のアノーラと電撃結婚をしたとのニュースは、まさに青天の霹靂だった。もしそれが法的に有効で、その情報がイヴァンの両親に伝われば、激怒した両親は間違いなくトロスたちの無能ぶりを罵った上で、クビに！その結果、本作中盤は大邸宅の中でセックス三昧の生活を楽しんでいるイヴァンとアノーラを、洗礼式を途中で抜け出したトロスの指示(怒鳴り声)の中で、まずイゴールとガルニクがイヴァンの邸宅を“急襲”し、イヴァンとアノーラの身柄を確保しようとするドタバタ劇になるので、それに注目！このシークエンスですごいのは、2人の屈強な男たちに対して真正面から張り合うべきイヴァンが早々に屋敷から逃げ出してしまうのに対し、身柄を確保されそうになるアノーラが口だけでなく、行動面でもパワーあふれる抵抗を続けることだ。なるほど、これならアカデミー賞主演女優賞にも納得と思える、そんなアノーラの圧巻の姿は、あな自身が目でしっかりと。

■□■ドタバタ劇に注目！その中の異変の芽にも注目！■□■

2025年3月11日付朝日新聞の文化欄は「セックスワーカー 心の叫びを」のタイトルで本作を取り上げ、「差別と傷から描かぬば 梶芽衣子の力強さ参考に」、「しっかり問題提起 覚悟や誇りと葛藤も」、「大河ドラマ『べらぼう』にも通底」の小見出しを掲げた。そんなテーマに沿って、本文中には、3月8日に都内で開かれたショーン・ベイカー監督らの舞台挨拶に、俳優の梶芽衣子が駆けつけたことを報告したうえ、ショーン・ベイカー監督は、自分を裏切った男に復讐する女の物語である「梶の代表作『女囚701号 さそり』をマイキー・マディソンに見せ、「家父長制的なものと闘う梶さんの姿が堂々としていて力強かった。マイキーにはそこを見てほしかった。梶さんの強さのDNAがマイキーに受け継がれたと思っています」と語っている。なるほど、なるほど。『べらぼう』で花魁(おいらん)を演じる小芝風花が見せるセックスワーカーとしての覚悟や誇りと、本作でアノーラが見せるそれが共通しているとは、何とも面白い指摘だ。

本作に見る（バカ）息子の見張り役たるイゴールとガルニクから如何に手ひどい暴力を受けようとも、とことんそれに抵抗するアノーラの姿は実にすごい。早々にトンズラしてしまった（バカ）息子のイヴァンとは大違いだ。アノーラの抵抗はガルニクの鼻の骨を折るほど強烈だったから、そんなアノーラを取り押さえるイゴールは後ろから強くアノーラを抱きしめ、アノーラを後ろ手に縛ったうえ、叫び続けるのを防ぐため猿ぐつわまでしていたからすごい。そんな場面に飛び込んできたリーダーである司祭のトロスが、イゴールに「アノーラを解放しろ」と命じたのは当然だが、そんなことをすれば先ほどの修羅場が再現すると確信しているイゴールはそれを断固拒否。若手女優マイキー・マディソンが『女囚 701 号 さそり』で見せた梶芽衣子の力強さをどこまで参考にしたのかは知らないが、イゴールとガルニク VS アノーラのドタバタ劇は本作中盤のハイライトだから、しっかり鑑賞したい。さらに、そこで注目すべきは抵抗を続けるアノーラに対して、イゴールが時々見せる尊敬とも驚愕ともさらには愛情とも見える視線だが・・・。

■□■遂に母親とご対面！婚姻無効の強権発動は？■□■

中世のヨーロッパや江戸時代の日本ならいざ知らず、近代国家の民法下では「婚姻は両性の合意に基づいてのみ成立する」から、戸籍に届出ささえすれば婚姻は有効。いくら両親が反対しても、それを無効にしたり取り消すことはできない。そんな理屈は、はるばるロシアからやってきたイヴァンの母親に対して、アノーラが大声で言い放ったとおりだ。

しかし、トロス、イゴール、ガルニクたちが散々探し回った挙句やっと発見したイヴァンが酒酺状態になっていたうえ、「アノーラとの婚姻をあくまで維持する」と明言できない以上、母親のアノーラに対する強権的な発言が一人歩きするのは仕方がない。わずかの手切れ金でアノーラを排除しようとする母親に対し、アノーラは「弁護士に依頼して婚姻が有効であることを主張する」とまで言ったものの、「やれるものならやってみなさい」と言われると・・・？さらに、肝心のイヴァンがやっと酔いから覚めたと思ったら、シャーシャーと「一時の遊びだった」と言われると・・・？本作後半では、手を変え品を変えてのイヴァンの母親とアノーラとの女同士の対決をしっかりと見守りたいが、勝者（と敗者）は自ずから明白だ。他方、そんな流れの中でも 2 人のやりとりの一部始終をしっかりと見守っていたのが、イヴァンの屋敷の中でアノーラが暴れるのを防止するため、後ろから強く抱きしめていたイゴールだが、そのことの意味は・・・？

■□■失われたシンデレラ物語の後に浮上する真実の恋とは？■□■

24 時間営業しているラスベガスの教会でイヴァンとの結婚式を挙げた時のアノーラは、まさに“幸せの絶頂期”にあった。それが財産目当ての結婚でないことはアノーラの良識に委ねたいが、法律的には、父親の財産を息子のイヴァンが相続した後は、その財産の半分はアノーラが相続することが約束されているからすごい。イヴァンからプレゼントされた 4 カラットの指輪や黒テンの毛皮などはほんのアクセサリーに過ぎない。セックスワー

カーとして働いていたクラブの元同僚の女たちがアノーラを羨んだ（嫉妬した）のは当然だ。意気揚々と店を出ていくアノーラに対して、「あなたの結婚は3か月も持たない！」と言い放つ同僚もいたが、そんな予言（やっかみ）が現実になろうとは！

イヴァンの母親は約束通りわずかの手切れ金は払ってくれるだろうが、そんなもので傷ついたアノーラの心が安らぐはずはない。また4カラットの指輪や黒テンの毛皮も、今は持っていては仕方がないものだ。イヴァンの母親に完全敗北したアノーラのそんな姿は、本作中盤の梶芽衣子ばりに強く戦う女とは正反対の憔悴しきった女だ。幸いにも、完全敗北の後、アノーラは一晚だけイヴァンの屋敷に泊まることを許されたから、その一晚の間に心の整理はできたらしい。そんなアノーラを翌朝、屋敷から古巣のアパートまで送っていくのはイゴールの役目だ。車の助手席に座ったアノーラに対して、イゴールは、「あの一門とは関わらない方がいい」と、自分自身の本音を含め、アノーラへの愛情を込めた表情で言うと、あれほど強かったアノーラが初めて涙を流すことに。なるほど、なるほど、ここでやっと、ロシアの大富豪の忠実な部下でイヴァンの見張り役だったイゴールは、何もかも失ってしまったアノーラとの間で、“ある気持ち”が通じ合ったらしい。その結果、本作ラストに見せるアノーラのあっと驚く行動（行為）は、あなた自身の目でしっかりと！

■□■第97回アカデミー賞は欧州組が席巻！■□■

第97回アカデミー賞は、作品賞、監督賞、主演女優賞、脚本賞、編集賞の5部門を本作が制した。また、2024年のベネチアで銀獅子賞（監督賞）を受賞した『ブルータリスト』が作品賞、主演男優賞、撮影賞の3部門を受賞した。そのため、2025年3月5日付朝日新聞は、「米アカデミー賞 欧州受賞組が席巻」と題して次のとおり報じた。

国際映画祭対決はカンヌの勝利ー。第97回米アカデミー賞は昨年のカンヌで最高賞パルムドールを取った「ANORA アノーラ」が作品賞など5部門を制した。昨年のベネチアで銀獅子賞（監督賞）の「ブルータリスト」も主演男優賞など3部門を獲得。米アカデミー賞と欧州の映画祭のテイストが、このところどんどん接近している。

さらに本文中でも、

カンヌの「アノーラ」と「エミリア・ペレス」「サブスタンス」、ベネチアの「ブルータリスト」「アイム・スティル・ヒア」。今年の作品賞候補10作のうち5作を、二つの映画祭の受賞組が占めた。そして合わせて12個のオスカーを持ち帰った。カンヌの3本が奇抜な物語展開と派手な映像で観客を飽きさせない斬新な作品であったのに対し、ベネチアの2本は生真面目なトーンのクラシカルな装いをまとっていた。それはくっきりと対照的だった。

と記載しているので、この指摘はしっかり受け止めたい。

2025（令和7）年3月13日記